

全国学力・学習状況調査（小学校 国語）

カテゴリー別正答率

※網掛け…本市の結果のうち、全国平均正答率を上回っているもの

<平均正答率>

	市	県	全国
平均正答率	65	63	60.9

<観点別>

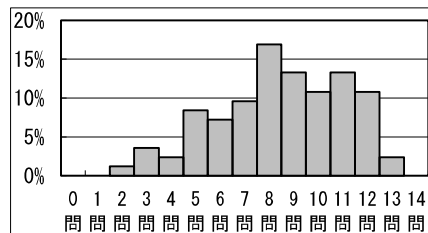
	市	県	全国
知識・技能	68.5	64.5	62.0
思考・判断・表現	62.1	61.2	60.1

<領域別>

	市	県	全国
言葉の特徴や使い方に関する事項	76.2	69.9	66.8
情報の扱い方に関する事項	53.0	53.6	52.3
我が国の言語文化に関する事項			
話すこと・聞くこと	67.9	66.9	65.8
書くこと	44.0	45.4	45.7
読むこと	71.7	68.5	65.9

<解答形式別>

	市	県	全国
選択	63.2	62.6	61.9
短答	78.3	67.0	62.6
記述	60.2	58.9	54.9



つまづきが見られた問題

<問題の概要>

「Aさんの文章の続き」の空欄に入る内容を、「集めた情報」から抜き出して考えが伝わるように書く問題。（記述）

<出題の意図>

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題。

（市正答率33.7% 全国正答率33.5%）

指導のポイント

自分の考えが伝わるように筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考えさせる授業展開を構想する。

<指導の具体例>

○必要な語句や文を抜き出して書かせる。

・引用する目的を明確にさせる。（テーマに必要な情報を選ばせる。）

○引用した部分と自分の考えとの関係を明確にして書かせる。

・引用した部分（事実）と自分で考えたことを区別させる。

・資料を比較・関連付けて「共通点」「相違点」を整理させる。

○書いた文章の見直しをさせる。

・ペアで読み合い、根拠が示されているか、条件を満たしているかチェックさせる。

全国学力・学習状況調査（小学校 算数）

カテゴリー別正答率

※網掛け・・・本市の結果のうち、全国平均正答率を上回っているもの

<平均正答率>

	市	県	全国
平均正答率	64	58	56.4

<観点別>

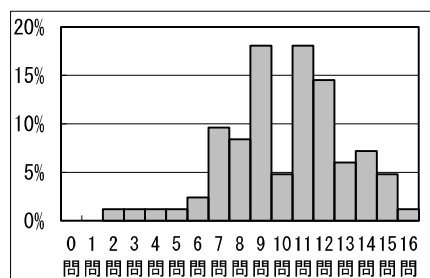
	市	県	全国
知識・技能	65.7	61.1	60.1
思考・判断・表現	58.1	48.3	45.4

<領域別>

	市	県	全国
数と計算	68.4	62.3	61.1
図形	65.4	56.5	55.3
測定	85.5	77.9	78.1
変化と関係	45.0	39.1	41.1
データの活用	56.0	50.6	48.6

<解答形式別>

	市	県	全国
選択	60.7	57.2	56.0
短答	66.1	60.5	59.7
記述	62.7	52.0	48.5



つまづきが見られた問題

<問題の概要> 二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半かるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く問題（短答）

<出題の意図>

二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる問題。

（市正答率15.7% 県正答率17.8% 全国正答率17.9%）

指導のポイント

目的に応じて必要なデータを収集し、表やグラフに表し、それらを用いて問題を解決するような授業展開を構想する。

<指導の具体例>

- 問題文の条件を確認する。
 - ・必要な情報に線を引かせる。
- 表の構造を説明させる活動を設定する。
 - ・行・列・マス目が何を表しているか説明させる。
 - ・合計と内訳を確認させる。
- 日常的にクロス集計表を扱う。
 - ・「条件が2つある表」を読む経験を積む。

※単位量当たりの大きさに関する問題もつまづきが見られる。

全国学力・学習状況調査（中学校 国語）

カテゴリー別正答率

※網掛け・・・本市の結果のうち、全国平均正答率を上回っているもの

<平均正答率>

	市	県	全国
平均正答率	64	64	63.9

<観点別>

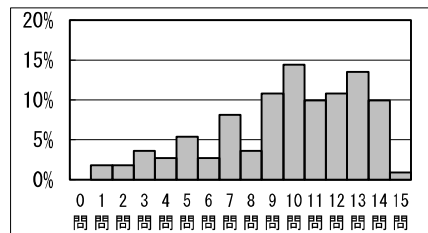
	市	県	全国
知識・技能	64.9	63.3	64.2
思考・判断・表現	63.9	63.7	63.7

<領域別>

	市	県	全国
言葉の特徴や使い方に関する事項	64.3	62.3	63.0
情報の扱い方に関する事項	67.6	68.3	70.4
我が国の言語文化に関する事項	対象問題なし		
話すこと・聞くこと	66.4	64.1	63.9
書くこと	69.1	67.0	67.4
読むこと	56.2	60.0	59.7

<解答形式別>

	市	県	全国
選択	69.5	71.4	72.7
短答	63.1	56.8	55.8
記述	49.8	46.8	45.5



つまづきが見られた問題

<問題の概要>

二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く問題。（記述）

<出題の意図>

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするのができるかどうかをみる問題。

（市正答率40.5% 全国正答率38.9%

市無回答16.2% 全国無回答18.6%）

指導のポイント

「構造と内容の把握」・「精査・解釈」・「考えの形成・共有」の学習過程を構想する。

<指導の具体例>

- 文章の中心的部分と付加的な部分に整理させる
 - ・段落の役割（筆者の主張・具体例・根拠）を確認させる。
- 必要な情報に着目して内容を要約させる。
 - ・必要な情報と不要な情報を区別させる（線を引かせる）。
 - 例：黄色・・・根拠をなる文、青色・・・具体例、緑色・・・補足説明
- 根拠を示して考えを述べさせる。
 - ・「本文に～とあるので、○○というふうに考えました」
 - ・ペアで、「考えの根拠」の交流をさせる。

全国学力・学習状況調査（中学校 数学）

カテゴリー別正答率

※網掛け…本市の結果のうち、全国平均正答率を上回っているもの

<平均正答率>

	市	県	全国
平均正答率	60	55	57.0

<観点別>

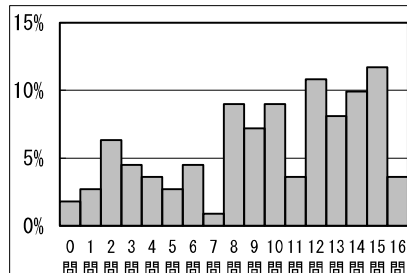
	市	県	全国
知識・技能	65.1	61.0	63.0
思考・判断・表現	45.7	36.5	39.1

<領域別>

	市	県	全国
数と式	66.3	65.4	67.8
図形	52.3	43.5	48.7
関数	59.8	55.2	54.8
データの活用	61.0	52.8	53.5

<解答形式別>

	市	県	全国
選択	57.7	57.9	59.3
短答	67.6	62.0	64.2
記述	45.7	36.5	39.1



つまづきが見られた問題

<問題の概要>

データ量が1000MBになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する問題。（記述）

<出題の意図>

数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題。
（市正答率39.6% 全国正答率33.9% 無回答率34.2%）

指導のポイント

数学的な事象の問題で解答だけでなく、問題解決の方法を説明する活動を設定する。

<指導の具体例>

- 解き方の説明と方法の説明の違いを整理させる。
 - ・方法の説明では、問題を解く手順を式・言葉・図などを使って筋道を立てて示すこと
- 用いるものを明確にさせる。
 - ・関数の場合は式・グラフ・表のどれを用いるのかを明示する。
- 数学用語を正しく用いらせる。
 - ・グラフの場合はx座標、y座標のどちらを求めるか。また式の場合はxとyの値のどちらになるかまでを考えさせる。

全国学力・学習状況調査（中学校 英語）

カテゴリー別正答率

※網掛け…本市の結果のうち、全国平均正答率を上回っているもの

<IRTスコア集計値>

	市	県	全国
平均IRTスコア	495	484	499

<観点別平均正答率>

	市	県	全国
知識・技能	61.8	57.4	57.8
思考・判断・表現	51.0	49.3	52.8

※観点別の数値について…各問題を観点別に分類し、その正答率を平均した値（参考値として扱う）

<技能別平均正答数>

	市	県	全国
聞くこと	1.1 / 2	1.0 / 2	1.2 / 2
読むこと・書くこと	2.6 / 5	2.4 / 5	2.5 / 5

つまづきが見られた問題

<問題の概要>

物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を表したものを選択する問題。（選択）

<出題の意図>

日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうかをみる問題。

（市正答率27.8% 全国正答率49.0%）

指導のポイント

日常的な話題に関する短い説明やエッセイ、物語などをよんで概要を把握する活動を設定する。

<指導の具体例>

○目的（何を知るために読むのか）を意識して読ませる。

・関連するキーワードを見つけさせる。

・段落ごとに要約させる。

○考えの根拠を説明させる。

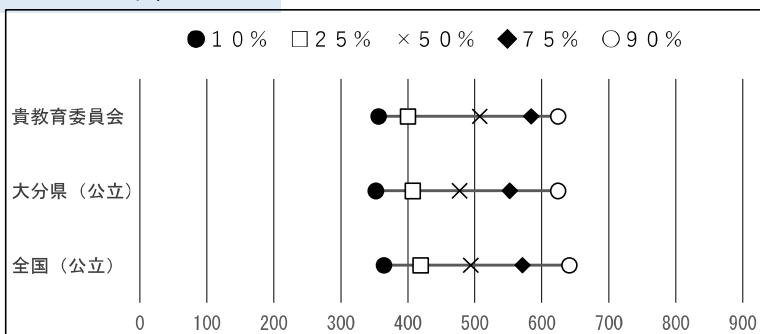
・どの英文・単語で判断したのかをペアで交流させる。

○選択肢を比較させる。

・共通、相違部分、本文に書いていない情報を区別させる。

・選択肢と本文の関連性を確認させる。

<IRTスコア分布グラフ>



【 津久見市 】

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問調査）

1 調査結果の概要

児童質問調査

・「自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する」の項目について、肯定的な回答が全国値より8ポイント以上低い。

・ICT機器の活用に関する項目において、肯定的な回答が全国値を超えるものはなかった。

・「授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」の項目について、肯定的回答は高いが日常生活と関連させて考える問題の正答率は低く、児童の意識と理解に差がある。

以上のことや各教科のつまずきのあった問題より、説明すること・日常問題に関連させること・ICT 機器を活用することについて課題があると判断できる。

生徒質問調査

・「自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する」の項目について、肯定的な回答が全国値より11ポイント以上低い。ただし、数学においては「説明する活動をよく行っていたか」という項目の肯定的回答は全国値と比べて20ポイント以上高い。

・ICT 機器の活用に関するいくつかの項目において、肯定的な回答が全国値に比べて低い項目が多い。

・家庭学習の時間に関する項目について、本市と全国値は同等程度であるが、県値と比べると本市の値が低い。

・小学校・中学校ともに、国語・算数数学の愛好度が昨年度の値より下がっている（低学力層も多い）。

以上より、説明すること（数学以外）・ICT 機器を活用すること・低学力層への支援について課題があると判断できる。

2 津久見市の児童・生徒質問調査の調査結果をふまえて

1. 自分の考えを広げ深める「対話的な活動」の充実

○説明する力を育む指導の工夫

- ・考えの根拠を明確にさせる
- ・「個で考える→対話・説明する→振り返る」の学習のサイクルの定着

2. 学び残しをつくらない手立ての工夫

○「具体的な評価規準」を設定→確かな見取り→努力を要する児童・生徒への手立て

○ICT の「学び」への活用

- ・デジタル教科書、タブレットドリルの効果的な活用

○日常生活との関連を通して理解を深める授業づくり

【 津久見市 】

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問調査）

Ⅰ 調査結果の概要

小学校：学校質問調査

・「学級やグループでの話し合いなどの活動で自分の考えを相手にしっかりと伝えることができているか」や「根拠を明確にして児童に筋道立てて説明させるような授業を行いましたか」という項目において、肯定的な回答が高い。

・「授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか」や「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」という項目において、肯定的な回答が低い。

以上のことから、対話的な活動の実施・説明する力を育むための授業改善が行われていると判断できる。今後も引き続き、主体的な学びを核とした授業づくりが必要と思われる。

中学校：学校質問調査

・「授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができるか」という項目において否定的な回答をしている学校もある。生徒質問紙においても関連する項目について、全国の値より低い結果となっている。

・「授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思うか」という項目に関して、否定的な回答をしている学校もある。

以上のことから、今後も説明する力を育むための授業改善・主体的な学びを核とした授業づくりが引き続き必要と思われる。

2 津久見市の学校質問調査の結果をふまえて

1. 安心して発言のできる教室づくり

○学習環境・学習規律等の統一

2. 楽しくて力の付く授業づくり

○自己決定の場や振り返りの場の設定など授業改善

○主体的な学びを核とした単元計画の設定

○ICT 機器の計画的な利用

3. 家庭・地域との課題の共有

○目標やビジョンを共有するための熟議の場（学校運営協議会など）の設定